



NPO 法人沖縄伝承話資料センターだより 23号

2020（令和2）年7月22 日 発行

〒901-2214 宜野湾市我如古 2-4-15 301

TEL/FAX 098-890-2455 E-mail : denshow1@at.au-hikari.ne.jp

新型コロナウイルスの影響で、センターの活動も制限せざるを得ない状況にありますが、今年度もがんばって、未来の子どもたちのために1話でも多くの沖縄の伝承話を保存・継承していきましょう！

新型コロナウイルス感染症の影響で、

総会は「書面決議」で実施！

2020年度の通常総会は、新型コ

ロナウイルス感染拡大防止のため、沖縄県NPOプラザ担当者の助言のもと、4月20日（月）付け三役会議において書面表決による開催とすることを決定し、正会員102名の皆さまには前もって議案書を送り、5月29日までにメールまたはFAXにて書面表決書又は委任状を送っていたいただきました。通常総会は5月30日（土）

参集代表者と委任状、書面表決書の合計でもって、定足数を充たし総会が成り立ちました。

結果は、次のとおりです。

第1号議案…2019年度事業報告及び活動決算について（原案可決）

第2号議案…2020年度事業計画（案）及び活動予算（案）について（原案可決）

第3号議案…任期満了に伴う役員の変更について（原案可決）

以上をもって、新年度の活動がスタートすることになりました。

今年度事業

① デジタル化未処理の調査テープ・カード・資料等の整理作業

② 再話研究会の開催・「沖縄昔ばなし 大学再話コース」の運営

③ 受託業務「デジタルミュージアム推進事業動画コンテンツ制作」

④ 広報活動

▼ はにんすの発行

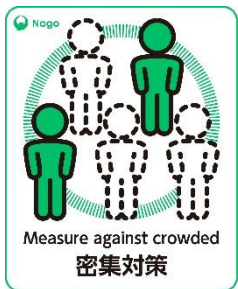
▼ パンフレットの作成

▼ ホームページの改正

⑤ 「遠藤庄治著作集」第2巻以降の編集作業及び発行の検討について

⑥ 「沖縄伝承話総覧」の検討と編集

☆ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度の「沖縄伝承の旅」は中止といたします。



休眠状態だったセンターの

ホームページが復活しました！

理事の樋口淳先生と照屋まゆみさんの連携作業により、センターのホームページが、リニューアルされました。とても利用しやすくなっています。ぜひ、アクセスを！

<https://denshouwa.okinawa>

総会で承認された理事による理事会（6月16日に書面表決で実施）の互選の結果、今年度の役員体制は次のとおりになりました。

理事長…照屋寛信

副理事長…比嘉久・大田利津子

理事…安里洋子・泉武・後藤明・佐渡山安公・田名洋子・樋口淳・辺土名朝三・丸山頭徳・諸見徳一・八島喜一・山口真也

監事…井上むつき・宮里牧

寄稿

音源としての

「島言葉」の価値

山城 直吉

よく知られているように、ユネスコは、世界のおよそ五千から七千語の言葉の内、二千五百語が消滅の危機にさらされている、と警告しており、その危機意識から多くの公的機関、研究機関や個人がさまざまな取り組みをしているが、失われつつある言葉を生き返らせることは容易ではない。

沖縄語の中でも特に、深刻なのは八重山方言である。八重山には九つの有人島があり、荒海に隔てられているため互いの言葉が通じにくく、目と鼻の先にある石垣島と竹富島でさえスムーズな会話ができないほど言葉の違い、波照間島の言葉は石垣島の人には、ほとんど理解できない。与那国島に至っては「ヤイマ」を「ダーマ」などまるで外国語のようなもので、それだけに言語文化的には貴重であると言われている。これら貴重な文化遺産が目に見えて崩れかけていることに

手をこまねいている私たちにも責任が皆無とはいえない。

柔和で美しい旋律に乗せて歌われるウンタ・ジラバ・アヨウなどの古謡や節歌（ふしうた）は言葉の宝庫でもある。私も、県の文化振興会に在職中、二〇〇八年から数年かけて「沖縄の古謡」シリーズを企画編集、八重山の島々村々を回って古謡を収録し、多くの音声を公開することができた。

そういう意味で一九七〇年代に古老による伝承話を音源として収録公開された「沖縄伝承話資料センター」の取り組みは、きわめて価値のある偉業であり、いち早く提唱・主導された遠藤庄治先生、実際に地域に入って地道に取材された当時の学生、今日まで継続しておられるNPO法人「沖縄伝承話資料センター」の皆さんに感謝申し上げます。

私の出身地である宮良村（めーらむら）は、石垣島の中で唯一「島（すいま）むに」が日々の暮らしに生き残っている地域である。通りすがり目上に会えば「頑丈（がんじゆ）やろーるん？」「のーんはぬ」（お元氣ですか？ だいじようぶさ）から会話が始まる。

一七七一年明和の大津波で宮良村は一二二一人中、生存者はわずか一七

一人、人口の八六%を失い、王府の命で小浜島からの強制移住により島建てをした悲惨な歴史を経験しているが、当然言葉も失われた。ただ、元宮良言葉（むとうめーらむに）が辛うじて残されており、フクムリ家（やー）のアップー（母親の叔母で、私もかすかにこの人のことをおぼえている）が元々宮良村で話されていた元宮良言葉最後の話者だが、惜しむらくは音声が残されていない。音源がいかに大事か考えさせられる。

「八重山むに」が急速に失われてきている現状を見ると、他地域に先がけて真剣に歯止めをかける必要がある。言葉は、文化の根幹であり、言葉が失われれば文化が消滅していく、ということを変更して肝に銘じ、私も微力を尽くしたい。

（会員…石垣市宮良出身／西原町在）



講座のお知らせ

日頃から会場借用などでお世話になっています「ぎのわんセミナーハウス」主催の講座です。

語りと伝承遊び！

日時：2020年8月5日（水）10時～12時

場所：ぎのわんセミナーハウス

講師：NPO法人沖縄伝承話資料センターのみなさん

定員：15名 ※マスク着用 体調がすぐれない方はご遠慮下さい。



次世代に引き継いでほしい

福島県梁川町の民話調査テープをデジタル化

「あのときのテープが残っているはずです。劣化が避けられないので探して下さい。それを沖縄でデジタル化したのです」と。その電話の声の主は、平成24年のまだ寒い初春の頃、遠く沖縄からの辺土名初美さんであった。

「あのとき」っていつのこと？劣化が避けられないテープって何のこと？ 私はこの電話を頂く前年に『梁川町史第十二巻口伝』を辺土名さんから頂いていた。昭和53年の3月から8月、それに翌々年の3月の計3回にわたり、団長・小澤俊夫先生・副団長・遠藤庄治先生率いる沖縄国際大学の学生さんをはじめ他の学生さんによる遠藤庄治先生の郷里福島県伊達郡梁川町を聴取対象とする口承文芸学術調査団が、マイク片手に東大枝・五十沢・富野・山舟生・白根・堰本・栗野・梁川の8地区の古老から昔語り・動物物語・笑話・伝説を収集した、とその本に詳細に記されていた。このことがまさし「あのとき」でありそのときのテープが「劣化」の対象物だった

である。

梁川町史編纂室2階の奥深い所に散逸していたそのテープ150本を見つけたのが、当時梁川町側の協力員だった編纂室職員の八巻善兵衛氏であった。聴取当時の記録カードは昭和62年の水害で流出したと後になって判明したがB4判縦の原稿記録はかろうじて残っていた。だが順序はバラバラであった。

梁川町は後に合併して伊達市となったため同市教育長の許可を得て、関係資料とともにようやく見出されたテープは平成24年に、沖縄伝承話資料センターの手に委ねられることとなる。

その後、令和2年4月7日にテープ150本が伊達市に返却された。それとともにデジタル化されたテープ150本分の昔話などの文化財が入っているUSBスティック1本が伊達市に寄贈された。更にCDプレイヤーで誰でも簡単に聞き取れるように、テープのA面B面に相当するように



梁川の民話CD収録

沖繩のNPO「永く次世代に」



伊達市に寄贈へ

民話を収録したCDを手にする八島理事

NPO法人・沖縄伝承話行われた民話や伝説に関する資料センター（沖繩県）の調査の音声データを、Cは、かつて伊達市梁川町で「D188枚にまとめた。24がわり、調査は同町の全

日に市に寄贈する。同NPOの八島理事（27）は、「梁川町の民話が永く次世代に伝わりついでほしい」と話す。音声データは口承文芸学術調査として1978（昭和53）年、80年に行われた調査団の中には同市梁川町出身で当時沖縄国際大学教授だった遠藤庄治さん（故人）がおり、調査は同町の全

▶ 福島民友新聞（令和2年6月13日）

沖縄側でCD183枚にダビングしてくださった。伊達市はこうした様々な配慮に感謝し、教育長自ら発した御礼の言葉を沖縄側に贈っている。「伝説は土地の人の誇りでありながら慎重に語り継がれているため、外部者が聞き出すことは難しい。また、この町史に掲載された話以外にも多くの話がテープに収録されている。こうした文化財を次世代において活用されることを願っている」と、遠藤庄治先生はこのように町史に綴っている。そしてこれまでの経緯が福島民友新聞に令和2年6月13日、『梁川の民話CD収録』という見出しで掲載された。

そこには遠藤庄治先生の「次世代に永くつなげてほしい」という願いが記されており、遠藤庄治先生はあの世できっと喜んでいらっしやるに違いない。照屋寛信理事長・比嘉久副理事長はじめ沖縄側の方々のご尽力により、梁川に伝わっていた昔話はこうして引き継がれたのである。

（理事・八島喜一／福島県在）

大好評!

県立博物館の

「ウチナー民話のへや」

沖縄県立博物館美術館のホームページに「ウチナー民話のへや」が開設されました。現在、令和2年2月末までに制作された31話の動画と、32、578話の検索ができるデータベースが公開されています。会員のみならずも一度、のぞいて見て下さい。ご承知のとおり、そこに公開されて

いる民話は、1973年から沖縄各地で行われた民話調査で直接、お年寄りの方々から聴取した話が基になっています。それにはセンター会員の多くが関わっています。さらに、その資料を樋口淳理事らが中心となって行った「データベース化」の作業により実現することができたものです。県立博物館では、80話の動画配信をめざし、今年度も制作を行っています。沖縄のすてきな伝承話が多く方々の耳に目に、そして心に触れることを願います。

『沖縄伝承話総覧』

を作りましょう!

遠藤先生は晩年、コツコツとこれまでに編集発行してきた民話集等に掲載された伝承話資料をスキャンして、「沖縄伝承話資料集成(仮称)」を作ることをめざしていました。「昔話」「動物昔話」「笑話」については、すでに分類を終え、掲載候補話も選び出されています。しかし、それぞれの話は各民話集等に掲載されたスタイルのままになっており、統一されていません。そこで、その資料を「あらすじ」という形に統一して、沖縄の伝承話の全体が見えるモノを作成しましょう!と、コツコツ作業を進めることになりました。「昔話」「動物昔話」「笑話」だけでも1289話型あります。かつて、民話調査を経験されたみなさんの協力が必要です。遠藤先生の教え子のみなさん、そして沖縄の伝承話に興味のある方々、ご協力お願いします。

詳しくはセンターへ!
今年もやります!

北部十二市町村の
伝承話資料デジタル化

「名護・やんばるの自然と文化拠点施設(名護博物館)」の整備事業の一環で、北部十二市町村の伝承話資料のデジタル化を行っており、当センターも作業に協力しています。デジタル化した資料は北部十二市町村で共有され、沖縄伝承話データベースにも組み込まれます。北部十二市町村の伝承話資料は、約二万三千話。

WEBアーカイブ ウチナー民話のへや

「しまくとぅば」による民話の記録を語り継ごう

「しまくとぅば」は、それぞれの地域の歴史や文化を語り継ぐための言葉です。その土地の文化や歴史を語り継ぐことができます。また、その土地の文化や歴史を語り継ぐことができます。また、その土地の文化や歴史を語り継ぐことができます。

博物館のホームページの中に、「ウチナー民話のへや」を開設しました!!

「ウチナー民話のへや」は、博物館で収蔵している約33,000話の民話(音声資料)の活用を目的としています。

①動画コンテンツの制作・配信

優良民話として選んだ80話のうち、令和2年2月末までに制作した31話の配信をスタート。

動画の再生パターンは4種類です。同じ民話をしまくとぅばや共通語などの語り口で楽しむことができます。



②地域別や話の種類別など、民話の情報を自由に検索できるデータベースシステム

博物館が所蔵しているCDに収録されている民話は32,578話あります。タイトルや話者などから絞り込み検索ができます。



学習や読み聞かせ、地域の催し物にぜひ活用ください! おきみゅーの博物館のページからアクセスできます。

<https://okimu.jp/museum/minwa/>



■会費の納入 よろしくお願ひします!

総会が書面決議になり、集会も行えない状況下、会費納入も不便な状況にあります。会費納入よろしくお願ひします。

①ゆうちょ銀行 口座番号: 01760-0-78884

②沖縄銀行宜野湾支店 口座番号: 1371606

口座名義は①②とも下記のとおり。

特定非営利活動法人 沖縄伝承話資料センター